

新任教授寄稿

化学反応解析講座 量子ビーム構造生物化学研究分野 南後恵理子

2020年4月、多元物質科学研究所に着任致しました南後恵理子と申します。1999年に東京工業大学理学部化学科を卒業後、同大学院理工学研究科化学専攻に進学し、2004年に同大学で助手となりました。7年間助手及び助教を務めた後、兵庫県の理化学研究所放射光科学研究センターに異動し、2019年に京都大学医学研究科での職を経て現在に至ります。私は仙台出身ですが過ごしたのは幼少期のみで、40年以上ぶりに仙台に戻ってまいりました。

私の研究内容は「タンパク質の動的構造解析」で、特にX線自由電子レーザーを用いた計測技術開発に取り組んでおります。今は構造生物学や放射光科学が主な専門ですが、元々は化学の出身で天然物化学を学んでおりました。学生時に二次代謝の生合成酵素を研究テーマとして進めているうちに、三次元構造を決定するためX線結晶構造解析に取り組むようになりました。従来得られる静的な構造だけではなく、タンパク質が機能している瞬間が観てみたいと思うようになり、次第に放射光を用いた手法開発に興味を持つようになりました。

10年ぶりに“化学科”に戻ってきました。自分がかつて学んだ学生時代を思い出し、懐かしさが込み上げております。また、大変伝統ある素晴らしい学科の一員となりまして、本当に光栄に思います。様々な分野を渡り歩いてきましたが、やはり化学は自分にとって一番面白く楽しい学問に思います。自分の研究テーマも分子の挙動や反応を知るという点で化学そのものだ実感します。そうした意味では、東北大で私の研究人生をスタートさせたことは“原点回帰”でもあり、より一層自身の研究を深めていきたいと思っています。

コロナ禍の折、対面で先生方とお会いする機会が大変少なく、お話することや顔を覚えて頂くことが難しい状況ではありますが、少しずつでも馴染んでいきまして、学科の一員として貢献したいと思うこの頃です。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。